

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分とB区分の両方
------	------------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほういじんやまものうがくどう		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 山本能楽堂		http://noh-theater.com
代表者職・氏名	代表理事・山本旭彦(芸名:章弘)		
制作団体所在地	〒 540-0025	最寄り駅(バス停)	谷町四丁目
	大阪市中央区徳井町1-3-6		
電話番号	06-6943-9454		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほういじんやまものうがくどう		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 山本能楽堂		http://noh-theater.com
代表者職・氏名	代表理事・山本旭彦(芸名:章弘)		
公演団体所在地	〒 540-0025	最寄り駅(バス停)	谷町四丁目
	大阪市中央区徳井町1-3-6		
制作団体 設立年月	1927年11月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 山本旭彦 理事:柴田仁、鳥井信吾、平岡龍人、 野村明雄、立野純三、梅若桜雪 監事:春好崇樹、谷岡弘邦		広く一般
事務体制 (専任担当者の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	山本佳誌枝
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	坂東敏夫

制作団体沿革	【沿革】 昭和2年4月 「山本観衡舎」を現在地に創設。 昭和20年3月 大阪大空襲により焼失 昭和25年4月 全国に先駆けて舞台を再建。「山本能楽堂」と名称変更。 平成18年2月 財団法人 山本能楽会の認可を大阪府教育委員会より受ける。 平成18年12月 文化審議会より国登録文化財の指定を受ける 平成23年2月 内閣府より認可を受け、公益財団法人山本能楽堂に名称を変更 【主な受賞歴】 平成21年 パナソニック教育財団奨励賞、平成23年 第42回博報賞 平成24年 関西元氣文化圏賞特別賞、平成24年 ティファニー財団伝統文化大賞 平成26年 国土交通大臣表彰「手作り郷土賞」、平成27年日本水大賞「未来開拓賞」 平成28年 国際交流基金地球市民賞、平成29年 第1回「はなやかKANSAI魅力アップアワード」～関西インバウンド大賞受賞(近畿産業経済局)、 平成29年 平成29年度外務大臣表彰、グッドデザイン賞2017 令和2年 グッドデザイン賞2019 令和3年 大阪文化賞		
学校等における公演実績	○これまでに全国約200校の小学校・中学校・特別支援学校で能の公演を実施。 ○大阪府内の約700の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で公演を実施。 ○平成23年～25年度 日本文教出版「小学社会6年上」の教科書表紙に採用される。 ○平成26年度より、日本文教出版「小学社会6年上」の教科書の、「鎌倉室町時代」の学習の中の「ふりかえりシート」の作成に協力 ○平成27年度からはデジタル教科書の制作に協力し映像に出演。 ○大阪天王寺高校、大谷高校、大手前高校、私立高槻中学校、市立山滝中学校、奈良県結崎小学校、大阪市立中大江小学校、興国高等学校、大阪外語専門学校等、小学校から大学、専門学校まで多彩な公演実績。 ○修学旅行生などの能楽体験の受入（国内・海外とも） ○韓国訪日研修団による教員、大学生、高校生の受入 * 別添あり		
特別支援学校等における公演実績	◆大阪府立富田林支援学校 半能「小鍛冶」、福岡県立直方養護学校 半能「小鍛冶」、 栃木県立足利特別支援学校 半能「羽衣」、山梨県立盲学校 半能「羽衣」 千葉県立船橋特別支援学校 半能「羽衣」東京都立八王子東特別支援学校 ・和泉支援学校 大阪府立思斉特別支援学校 大阪府立難波特別支援学校 大阪府立高槻支援学校 大阪府立佐野支援学校 大阪府立摂津支援学校 大阪府立富田林支援学校 大阪府立とりかい高等支援学校 大阪府立高槻支援学校中等部 大阪府立泉北高等支援学校 大阪府立高槻高等支援学校 大阪府立平野支援学校 大阪府立大阪視覚北支援学校 堺市立百舌鳥支援学校 大阪府立交野支援学校高等部 大阪府立大阪南視覚支援学校 大阪府立生野視覚支援学校 大阪府立八尾支援学校高等部 大阪府立摂津支援学校中等部 大阪府立寝屋川支援学校中等部 大阪府立寝屋川支援学校商学部 など ◆特別支援学校の先生のご発案により、史上初の能楽の無料楽器演奏アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、能の音楽の普及につとめてきた。 ◆特別支援学校での本アプリ活用の事例が全国的に広がりつつある。 * 別添あり		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/5hqFttBcTeE	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

公演・ワークショップの内容

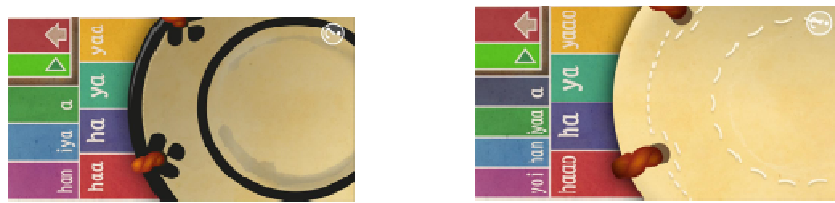
【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	伝統芸能と遊ぼう！～能「羽衣」と狂言「柿山伏」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	【能と遊ぼう！ 狂言「柿山伏」と 能「羽衣」】 *別添あり ①始まりの挨拶(能のお稽古は必ず挨拶から始まります) 学校の校歌を謡でうたう。②能・狂言のお話(歴史、なりたち、能の中のそれぞれの役割分担など) ③ 「羽衣」の謡の練習(新型コロナウィルスが収束していなければ詞章を説明し、一緒に謡います) ④ 狂言の説明と体験 ・全員で名のり(自己紹介)の体験、泣く・笑うの体験、 ・動物の鳴きまねや狂言の型の説明 ⑤ 狂言「柿山伏」の上演 ⑥ 能「羽衣」のお話 ⑦ 能の囃子(楽器)の解説(笛、大鼓、小鼓、太鼓) ⑧ 能「羽衣」の鑑賞 ⑨ 質問コーナー *子ども達のあらゆる疑問にお答えします。 ⑩ 終わりの挨拶 【演目】 能「羽衣」/作者不明 素材・「丹後風土記」などの羽衣伝説 狂言「柿山伏」 /本狂言の中の鬼山伏狂言 公演時間 90 分			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	【能「羽衣」のお話】 *別添あり ある春の朝、駿河国三保の松原に住む漁師・白龍は、釣りに出たおりに、松の枝にかかった美しい衣を見つけます。家宝にしようとし持ち帰る白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでした。見廻りに来ていた柿の持ち主に洪柿が当たってしまい、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまいます。柿の木に登っているのはだだ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、しみにに鳶は飛ぶもの、と言われてしまい、結局飛んでは見るものの、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。 【狂言「柿山伏」のお話】 山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、のどが乾いてしまい、ふと見あげると見事な柿があることに気づきます。木の下から落とそうと試みますが、中々巧いかなかったため、木に登って柿を食べていました。ところが、誤って口にしてしまった洪柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた柿の持ち主に洪柿が当たってしまい、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまいます。柿の木に登っているのはだだ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、しみにに鳶は飛ぶもの、と言われてしまい、結局飛んでは見るものの、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。			
演目選択理由	①能「羽衣」、狂言「柿山伏」とともに教科書に掲載されており、子供たちにとって身近に感じることができる演目である。 *別添あり ②開催校によってはその地方独自の羽衣伝説が残っていて、その地の歴史と連動させる可能性がある。また、謡の部分は日本人特有の美しい詞章であり、能の持つ優美な世界を容易に連想することができる。 ③「羽衣」は能を代表するに人気演目であり、能以外の様々な舞台芸術や美術で取り上げられる題材であり、「羽衣」を体験しておくことでその後の芸術鑑賞の幅が広がる。 ④「柿山伏」は、わかりやすい筋書きになっており、単純な笑いに満ちているので、子ども達にもとつきやすい内容になっている。また、途中に、カラスやサル、犬、鳥の真似をするが、「真似をする」という行為は、様々な舞台芸術の基礎にあるものであり、子どもたちが面白がって「物まね」を真似ることで、豊かな感受性が育まれる。 ⑤能「羽衣」も狂言「柿山伏」も、る代表的な演目であり、能と狂言の基本的な魅力を子どもたちが学び、楽しむ機会となり、またそれぞれの芸能の違いや特色も体感でき基本的な能と狂言の演目を、鑑賞する機会となる。 *別添あり			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	1.ワークショップにて能の中の謡を子どもたちが体得し、公演当日みんなで一緒に地謡に参加し、プロの能楽師と共に舞台で共演する。謡を謡うことで、能の中により感情移入ができ、能を理屈ではなく、体で理解し、楽しむことができる。必要であれば、ひらがなでわかりやすく「字幕」の掲示も可能。(コロナが収束していなければ声を出さずに参加) 2.能の楽器である囃子のリズム体験ならびにリズム遊びにより、西洋音楽とは異なる、日本古来の音楽を体感する。 3.能と狂言の型(所作)のワークショップにより、日本の古典芸能の演劇としての基本に触れ、西洋の演劇とは違う、簡略化し昇華した演劇の表現法を自然に子供達が学ぶ。同時に、能と狂言の表現の違いも体験する。 4.能の基本ともいえる「すり足」を子ども達が体験する事で、日本人として体の使い方を習得する。また「すり足」は、茶道や武道など他の日本文化の基本となり、「すり足」を体験する事で、その後あらゆる日本文化に興味を持つことができるよう促す。 5.ワークショップや公演の終了後も、興味を深めることができるよう、ゲーム感覚で遊びながら能の謡や楽器演奏、能の知識が学べる3種類のアプリ、5分間の短い動画20本(「能の5分間」)、3D能面2種類(小面、般若)、3D能楽堂をフォローアップ教材として活用する。 *別添あり			
出演者	○シテ方 山本章弘、杉浦豊彦、吉井基晴、大西礼久、梅若基徳、今村一夫、井戸良祐(以上 重要無形文化財総合指定保持者)、前田和子、武田崇史、藤井文雄、笠田祐樹、山本麗晃(うちシテ 1名、地謡 5名、後見 1名、ハタラキ1名) 計8名 ○ワキ方 原大、有松遼一、原陸、岡充、福王知登、喜多雅人、矢野昌平など 計 2名 ○狂言方 善竹隆司、善竹隆平、上吉川徹、茂山千之丞、鈴木実(大蔵流) または野村太一郎、月崎晴夫(和泉流)等 計 3名 ○囃子方 笛、大鼓、小鼓、太鼓:榎矢 亮、斉藤敦、守家由訓、古田知英、井上敬介、中田弘美(以上重要無形文化財総合指定保持者)、斉藤敦、林大和、など) 計 4名			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 17 名 スタッフ: 2 名 合 計: 19 名	運搬	積載量: t 車 長: m 台 数: 大型バス1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	11時30分	11時30分から12時30分		13時40分～15時20分	10分	15時20分～16時10分	16時10分	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。								
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月			
	10日	10日	10日	10日	8日			
	11月	12月	1月	計		76日		
	8日	10日	10日					
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。							
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安	10人から500人程度			
				鑑賞人数目安	10人から500人程度			

公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出や がわかる写真) ※採択決定後、採 択団体へ図面等詳 細の提出をお願い します。		(図1) 体育館舞台上に立体的な老松を設置し、いつもの体育館を、瞬時に能の舞台に変えて事業を実施します。(30分程度で設営でき、撤収も30分以内に終わります)。これまで、他の事業も含め、全国で1000校近い学校で事業を実施しましたが、能の上演にはあまり大きなスペースが必要ではないため、ほとんどの学校の体育館の舞台で公演を実施しました。 舞台設置に必要な面積 約4 m × 80m
		(図2・3) 子ども達が、興味関心を持ちやすいように、約5分間ごとに新しい話題を提供し、クイズ形式なども取り入れて、持続的に興味・関心が持てるよう導きながら、能に対する基礎知識を説明する。楽器の演奏並びにそれぞれの楽器の説明もおこなう。
		(図4・5) 狂言についての説明をおこなう。狂言の「型」、泣く、笑うや「名乗り」などをその場で実際にやってみる。「柿山伏」についての解説を行った後、狂言「柿山伏」を鑑賞する。
		(図6・7) 能「羽衣」についての解説を行った後、能「羽衣」を鑑賞する。最後の部分は、子供たちが一緒に謡う(または口ずさむ)。最後に子供たちからの質問に応える時間を十分に撮り、あらゆる疑問に答える。挨拶で終わる。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10名から600名程度
ワークショップ 実施形態及び内容	標準90分 *別添あり ①始まりの挨拶<5分> ・体育館または多目的室などに集まった子ども達の前に、「着物(和服)」を着た、能楽師(シテ方)が登場し、まずは、大きな声で、生徒の皆さんにご挨拶をします。お辞儀の仕方なども指導します。 *子ども達は少しお互いに距離をあけて、座っていただきます。(学校側の指導に従います) ②能と狂言についてのお話 <10分> ・能の狂言について、その歴史から、わかりやすく説明をします。子ども達の学年に応じて、高学年、中学生であれば歴史の授業と連動させた内容でお話します。 ③能面の説明(小飛出、小面、若女、深井、姥、泥眼、般若、しかみなど) <10分> ・能面を6種類用意して、その違いを説明します。特に、能の代表的な能面である小面(こおもて)を中心に、若女、深井、姥など、女性の年齢によって能面が変化して表現されることや、泥岩、般若など、精神状態やその内面が、約650年前からどのように表現されてきたかを、現代社会と対峙させて説明をします。女性の鬼と男性の鬼の違いも説明します。さらに、能面のわずかな傾きで、様々な感情が表現され、表情が変わることを子ども達に実感してもらいます。 *能面はあらかじめ専用のカバンにに入れて用意してすぐに取り出せるよう準備をしておきます。また、後ろの方の子ども達も見ることができるよう補助者の能楽師が、能面を持って、子ども達の近くまで持っていきます。 ④学校の校歌を「謡(うたい)」でうたおう! <5分> ・あらかじめ、学校の先生から教えてもらった学校の校歌を、「謡(うたい)」でうたいます。効果は七五調で作られていることが多いため、「謡」でうたうことができます。 ⑤能「羽衣」についてのお話<10分> ・「羽衣」のお話について説明をします。特に月との関係を伝説をもとに説明をおこない、子ども達の興味を引き出します。 ⑥能の謡の体験<10分> ・「謡」について興味が出たところで「羽衣」の謡をみんなで練習します。観世御宗家から許可を得て作成しているオリジナルのテキストを使用します。テキストには子ども達が興味を持てるようマメ知識も掲載しています。 ⑦すり足体験と能の「型」について <10分> ・体を使って、その場ですり足や、能の「型」を体験し、能の身体表現について学びます。 ⑧能装束の説明と着付<15分> ・学校の先生に能衣装を着けさせていただき、能姿になって頂きます。 *先生とは事前に打ち合わせを行い、先生の足のサイズの足袋を用意し、あらかじめ履いていただきます。 *身近な学校の先生が「能姿」に変身することで、子ども達の興味が倍増し、楽しんで学ぶ事ができます。 ⑨質問コーナー <10分> ・子ども達の素朴な疑問から、ありとあらゆる質問に答えます。 *大変大切にしている時間なので、少し長い時間を取らせて頂いています。 ⑩終わりの挨拶<5分> ・本公演への期待が膨らむよう、子ども達に内容について紹介し、元氣よく終わりの挨拶をします。 *休憩が必要な場合は、学校の先生に相談して、10分程度の休憩時間をもうけます。		
ワークショップの ねらい	1、ユーモアを交え、楽しく、わかりやすく、自然な形で能全般に対する知識を持てるよう興味を促す。 2、能の基幹をなす謡(うたい)を、観世宗家の許可を得て独自に開発したオリジナルテキストを用いて、子ども達が能の謡を体得できるよう指導する。ゲームで学べるアプリも副教材として使用する。 3、校歌を謡にすることで、能のリズムを子ども達が楽しく、自然に体得することができる。 4、日本の伝統工芸の粋である「本物の伝統工芸」に触れ、その魅力を知ることができるよう導く。 5、能装束の着付けを先生や生徒に行うことで、能に対する親近感をうみ、関心を高める。 6、生徒からの様々な質問に答え、ふりかえりを行うことで、本公演への期待を高める。*別添あり		
その他ワークショップに 関する特記事項等	*興味を持った子供たちが、より深く学び、興味・関心を持続できるよう、当財団がオリジナルで開発した5種類の能楽を楽しむ学習アプリ、デジタル教材(3D能面、3D能楽堂)、能の5分間動画などを学校の先生に相談して、紹介します。 *すべて無料で誰でもダウンロードができ、アプリによっては、日英のバイリンガル対応になっていますので、海外から編入してくるなどして、日本語よりも、まだ英語の方が特異な子ども達も、無理なく日本文化を学ぶことができます。 *別添あり		

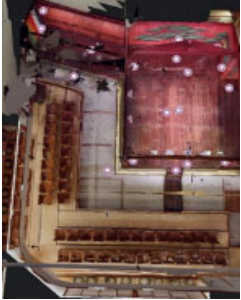
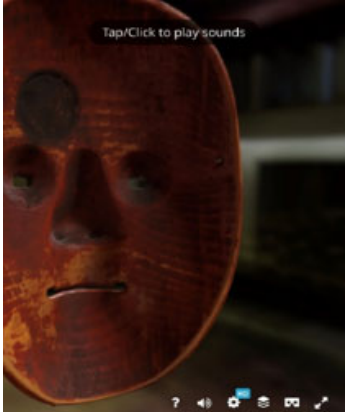
リンク先	No.1	【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】
項目内容	(学校等における公演実績) 学校等におけるこれまでの公演実績が認められ、「小学社会6年上」(文教出版社)の教科書、振り返りシートなどの制作に協力。  ◇デジタル教科書の制作にも協力 副教材として学校の先生方にご活用頂いています。 ・能についての説明 ・能楽堂について ・能の道具について ・狂言について 	
	(特別支援学校における公演実績) ◇視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、または病弱者(身体虚弱者を含む)の方、それぞれに応じた公演を実施させて頂いてきました。  ◆特別支援学校の先生のご発案により、史上初の能楽の無料楽器演奏アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、能の音楽の普及につとめてきた。 ◆特別支援学校での本アプリ活用の事例が全国的に広がりつつある。 	

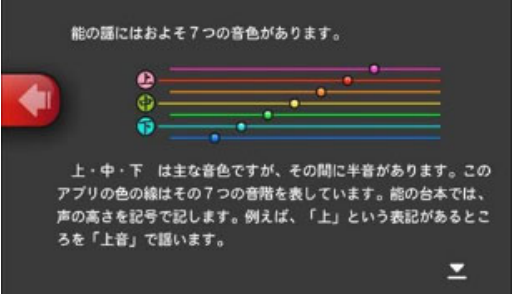
リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】
項目内容	(本公演演目/演目概要) 能「羽衣」と狂言「柿山伏」は、教科書にも掲載されており、長年日本で親しまれてきた、能を代表する演目です。そこには日本人が古来大切にしてきた精神性や価値観が内包されています。	
		
	能「羽衣」	狂言「柿山伏」
	<能面や能に使用する小道具の展示> 学校側の希望があれば、休み時間等に子ども達が様々な能面の種類や魅力に触れられるよう、公演会場となる体育館の周辺(内部あるいは通路など)に能で使用する小道具や多彩な能面の展示を行い、子ども達の能に対する理解や興味を深めます。	
		
	<能「羽衣」のあらすじを5分間のアニメで上演することが可能です。> 学校側から希望があれば、能「羽衣」のあらすじを5分間のアニメにまとめたものを、能「羽衣」の上演前、もしくは休み時間にプロジェクターで会場内で投影し、子ども達の理解を深めることができます。事前にデータでお渡しして、能の公演の前日などにご活用頂くことも可能です。	
		
		

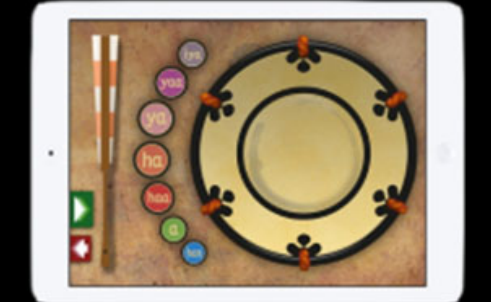
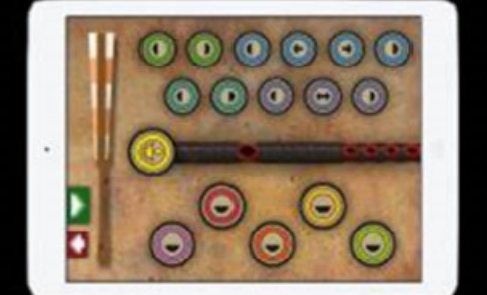
スマホ能

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】
項目内容	(本公演演目/演目概要) 能「羽衣」と狂言「柿山伏」は、教科書にも掲載されており、長年日本で親しまれてきた、能を代表する演目です。そこには日本人が古来大切にしてきた精神性や価値観が内包されています。 能「羽衣」 能を代表する有名な演目です。ある春の朝、駿河国三保の松原に住む漁師・白龍は、釣りに出たおりに、松の枝にかかった美しい衣を見つけます。家宝にしようと持ち帰る白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでしたが、「それがないと天に帰れない」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらう代わりに、衣を返すことにします。羽衣を着た天女は、月宮の様子を表す舞などを見せ、さらには春の三保の松原を賛美しながら舞い続け、やがて彼方の富士山へ舞い上がり、霞にまぎれて消えていきました。    【狂言「柿山伏」のお話】 山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、のどが乾いてしまい、ふと見あげると見事な柿があることに気づきます。木の下から落とそうと試みますが、中々巧いかなかったもので、木に登って柿を食べていました。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた柿の持ち主に渋柿が当たってしまい、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまいます。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、しみにに鳶は飛ぶものだ、と言われてしまい、結局飛んでは見るものの、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。  	

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】
項目内容	<公演に字幕をつけさせて頂くことも可能です> 学校側のご希望があれば、能の上演時に「字幕」をつけさせていただくことが可能です。 「羽衣」は物語もわかりやすく、能の詞章そのまま、意味ははっきりとわからなくても、室町時代から詞章をそのまま聞いて、子ども達に「感じて」頂くアプローチと、「字幕」に室町時代そのままの詞章と現代語訳を掲示し、意味をきちんと把握できるようにするアプローチと2方向が考えられるため、準備をさせて頂き、学校側の希望に応じさせていただきます。   <終演後に> 1. 学校側の理解が得られれば、子どもたちに感想文を書いていただき、それに対するお礼状や当財団からの感想を学校に送付し、子どもたちに伝えてもらうことで、単なる一過性の公演ではなく、交流を行うことで相互理解を深め記憶に長く留めて頂きます。 2. 各学校の校歌を「謡」にした音源を学校側にお渡しさせていただき、稽古を重ねていただくことで、例えば終業式、あるいは卒業式などの式典で子どもたちに発表していただくことも可能です。ご希望であれば、DVDで指導法をお渡しさせていただきます。 3. 学校側の理解が得られれば、子ども達が自宅に帰られた後、保護者の方と一緒に能についてお話したりできるよう、インターネット上の動画で能についての解説をおこない、保護者の方と一緒にご覧いただき、ご家族で舞台芸術の体験の思い出を共有し、能に対する理解を深めて頂くこともできます。 4. また、独自に開発したアプリを活用し、「羽衣」のアニメをご覧頂いたり、能について学んで頂いたり、能面神経衰弱などのゲームでご家庭で遊んで頂くこともでき、能の世界を膨らませて頂けます。    <教員の先生方ならびに保護者の方へのワークショップ> ●学校側から希望があった場合、教員の先生方ならびに保護者の方を対象としたワークショップまたは能のお話を実施させて頂くことが可能です。 ●開催時間、内容に関しては、学校側のご要望に応じ、個別に対応させていただきます。 ●また、教員の先生方に向けて、教育現場でどのように能をはじめとする伝統芸能の授業をおこなえばよいか、具体的に相談に応じさせていただきます。 ●開催時間、内容に関しては、学校側のご要望に応じ、個別に対応させていただきます。 また、教員の先生方に向けて、教育現場でどのように能をはじめとする伝統芸能の授業をおこなえばよいか、具体的に相談に応じさせていただきます。  	

リンク先	No.2	【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】
項目内容	◇3Dスキャン能楽堂 ・能楽堂内に置かれたサインをクリックすると、能舞台について学ぶことができる。 ・能舞台の床下に置かれている甕の部分にも自由に歩いて見ることができる。    	
	◇3Dスキャン能面(小面、般若) 江戸時代に作られた能面の裏も表も自由に手に取るように楽しむことができる。 ・肉眼では見ることのできない、詳細な部分も拡大して閲覧することが可能。 ・能楽師・山本章弘による能面の解説を聞きながら自由に楽しむことができる。   	

リンク先	No.3	【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】
項目内容	①観世宗家の許可を得て、子ども達に向け独自に開発したオリジナルテキストを用いて、子ども達が能の謡を体得できるよう指導する。能の謡(詞章)は、現代には使われていない言葉も多いが、日本古来の美しい日本語の響きやリズムを有するため、子ども達の日本人としての遺伝子に反応し、驚くほど早いスピードで習得する。そして、子ども達が謡を思わず口ずさんでしまうようになった時、子ども達の頭の中に、美しいパノラマの世界が現れ、連綿と続く日本人としてのアイデンティティを確立することができると考える。その結果、本物の能の公演に、みんなで地謡として共演する事ができたなら、何物にも変えがたい貴重な体験、楽しい思い出となるのではないだろうか。そして、その経験は成長してから、身体の奥深い部分に残り、生涯を通して価値ある財産となりえる。必要であれば独自に開発した能の謡を習得するアプリを使用する。   ②日本を代表する伝統芸能でありながら、「敷居が高い」と思われがちな能楽を実際見ることで、子どもたちに大きな刺激と感動を与え、子ども達の大切な思い出とすることができる。能は「高尚である」と思われると同時に、「訳が分からないもの」「自分とは関係のない演劇」という印象を持たれやすいが、感受性の強い幼少期に子ども達が「みんなで一緒に作り、みんなと一緒に楽しんだ」という経験を持つことで、将来の芸術家の育成や、大人になってからの芸術鑑賞能力の向上につなげることができる。 ③校歌の歌詞は、七五調で作られていることが多いため、能の謡(うたい)の節づけを容易に行うことができ、謡への変換が可能である。子どもたちが常日頃から親しんでいる各学校の校歌を謡でうたい、子どもたちも一緒に練習し謡うことで、謡について子ども達が慣れ親しむ素地を作り、本公演での能の鑑賞の理解へとつなげていく。校歌を謡にし、子ども達に教えることで、能の根幹をなす謡(うたい)のリズムを子ども達が楽しく、自然に体得することができる。これまでの経験では、校歌を謡にすることで、強制しなくても、自発的に毎日お互いに校歌の謡をうたいながら遊ぶと確信する。 ④能で使用される能面や能装束は、日本の伝統的な工芸技術の粋の結集であり、美術品としての価値も高く、貴重であるが、そのような「ほんもの」を子ども達が実際に目にし、身近に触れることで、工芸の美についての理解を深める貴重な体験の機会を創出する。   ⑤能装束の着付けを、担任の先生や生徒が行い、瞬時に能の登場人物に変身することで、「日常が非日常に劇的に変わる舞台芸術の面白さ」を子ども達が体感することができる。(コロナが収束している場合) ⑥終演後は子ども達からの質疑応答を受け付け、お互いに感想を述べ合うことで、より深い満足感と充実感を子どもたちが感じるよう導く。ふりかえりの時間を設ける。	

リンク先	No.3	【公演団体名 公益財団法人 山本能楽堂 】
項目内容		1.、今までに多くの特別支援学校で能に関する事業を実施させて頂いてきたが、特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、または病弱者(身体虚弱者を含む)が通われているかによって、それぞれに対応した授業が求められ、また事前に先生方と綿密な打ち合わせをおこなう等、細心の注意が必要である。 肢体不自由者、または病弱者(身体虚弱者を含む)の方については、特別な事をしなくても、同じように楽しんでいただいたり、一般の生徒の教室と一緒に参加していただきた。 視覚障害者の方の授業では、手で触れることのできる能面や、能面の表面の仕上げがされていない状態のものなどを触って違いを楽しんで頂いたり、様々な材質の違う能衣装の布地の触感の違いを楽しんで頂き、大変喜んで頂いた経験を持つ。 2.ただ、説明などよりも「音」やリズムを楽しんで頂き、できるだけシンプルな授業を行わせて頂くのが一番よいと思うので、ワークショップの内容は能の楽器(囃子)を中心とし、楽器演奏や、能のリズムを中心とした内容を実施してきた。 3.また、子ども達に能を教えて頂くためには、学校の先生方にまず能を楽しみ、理解して頂かないといけないということに気が付き、約10年前から学校の先生方を対象とした3日間の能の寺子屋教室(3日間の集中ワークショップ)を毎年実施してきた。そして、その中の振り返りの意見交換会で、特別支援学校の先生から、「子どもたちにiPadで能の楽器を教えることができればいいのに」というご意見を頂いたことをきっかけに、史上初の能楽アプリ「OHAYASHIsensei」を開発し、無料で公開している。このアプリによって、特別支援学校の子どもたちはもとより、一般の子どもたちも、容易に能の音楽に触れることができるよう工夫をこらし、子どもたちがいつでも手軽に能の楽器を楽しむことができる環境づくりに取り組んでいる。   4.「音」に関しては、能の囃子は普段耳にすることがない非日常な「音」でもあると思うので、生徒の中に驚いたり、ショックを受けたりする人がないかあらかじめ学校の先生と打ち合わせを重ね、授業を実施していきたい。 5.特別支援学校で公演を実施させて頂くときは、特に事前に先生方と詳細に打合せを重ね、公演を実施しているが、1校、1校、毎回違った事案があるので、終演後は先生方からご意見を頂き反省点を振り返ることで、ノウハウを蓄積し、特別支援学校ならではの楽しんで頂ける公演づくりを目指したいと考えている。 6.場合によっては、本公演時、地謡ならびにハタラキの能楽師の一部を、生徒のみなさんの中に配置し、細やかに対応させて頂く工夫が必要な場合もあると考え、いつも現場で臨機応変な対応を心掛け、最善の効果が生まれるよう、ワークショップならびに本公演に取り組んでいる。  

令和4年度 文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一

伝統芸能と遊ぼう!

きょう

げん

かき

やま

ぶし

狂言「柿山伏」

と

のう

は

ごろも

能「羽衣」

いつもの
体育館が、能舞台に
変身します!

こんなことをします!

能や狂言の物語や
能の楽器についての
お話を聞いたあと、
能と狂言を鑑賞します!



狂言「柿山伏」より



能「羽衣」より

主催：文化庁

製作・実施団体：公益財団法人 山本能楽堂

※小学生・中学生を対象に「本物の舞台芸術」を身近に触れる機会を提供し、子どもたちの豊かな発想力やコミュニケーション能力を育成するための事業です。能のワークショップと、能・狂言の公演を2日間にわたって行います。

山本能楽堂では、能を「現代に生きる魅力的な芸能」としてとらえなおし、新しい視点にたった公演を企画し、老若男女、外国人を問わず「能」を気軽に、かつ本格的に楽しめる環境づくりに取り組んでいます。

子ども達の感性を大切にした能のアウトリーチ活動も積極的に行っており、「小学社会6年上(文教出版)」の教科書の作成にも協力しています。平成23年には、子ども達に日本文化を継承するため先駆的な活動をしていることが認められ、第42回博報賞を受賞しました。

子ども達が感受性の高い時期に、ユネスコ世界無形遺産の「能」を通じた文化的な楽しい体験をしていただくことで、日本人としての豊かな感性を育んでいただければと願っています。



ワークショップの内容

- ① 始まりの挨拶 (能のお稽古は必ず挨拶から始まります)
- ② 能についてのお話
- ③ 能「羽衣」について
- ④ すり足体験と能の「型」について
- ⑤ 能の謡の体験
- ⑥ 学校の校歌を謡でうたおう!
- ⑦ 能面の説明
- ⑧ 能装束の着付
- ⑨ 質問コーナー
- ⑩ 終わりの挨拶

能・狂言の公演の内容

- ① 始まりの挨拶 (能のお稽古は必ず挨拶から始まります)
- ② 能・狂言のお話 (歴史、なりたち、能の中のそれぞれの役割分担など)
- ③ 狂言のワークショップ (泣く・笑う・動物の物まねなどの型、名のりなど)
- ④ 本日の演目「柿山伏」の説明
- ⑤ 狂言「柿山伏」の上演
- ⑥ 能の囃子(楽器)の解説 (笛、大鼓、小鼓、太鼓)
- ⑦ 能「羽衣」のお話
- ⑧ 能「羽衣」の鑑賞
- ⑨ 質問コーナー
- ⑩ 終わりの挨拶

狂言「柿山伏」のお話

山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、のどが乾いてしまい、ふと見あげると見事な柿があることに気づきます。木の下から落とそうと試みますが、中々うまくないかなかったので、木に登って柿を食べていました。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた柿の持ち主に渋柿が当たってしまい、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまいます。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場をしのぐものの、しみに鳶は飛ぶものだ、と言われてしまい、結局飛んでは見るものの、大怪我をしてしまい悪事がばれてしまいました。



能「羽衣」のお話

春の朝、駿河国三保の松原に住む漁師・白龍は、釣りに出たおりに、松の枝にかかった美しい衣を見つけます。家宝にしようと持ち帰る白龍に、天女が現れて声をかけ、その羽衣を返して欲しいと頼みます。白龍は、はじめ聞き入れず返そうとしませんでした。が、「それがないと天に帰れない」と悲しむ天女の姿に心を動かされ、天女の舞を見せてもらう代わりに、衣を返すことにします。羽衣を着た天女は、月宮の様子を表す舞などを見せ、さらには春の三保の松原をかすみながら舞い続け、やがて彼方の富士山へ舞い上がり、霞にまぎれて消えていきました。



山本能楽堂の能舞台



能舞台の鏡板



SUPER UTAI
スーパーうたい
能の謡がうたえる! 無料アプリ



iOS



Android



WeNoh!
羽衣のアニメを楽しめる! 無料アプリ



iOS



Android



OHAYASHI sensei
能の楽器の達人になれる! 無料アプリ



iOS



Android